

保護回復事業計画評価検証シート

- 1 保護回復事業計画 対象種名 ブッポウソウ
 2 計画策定年度(評価基準年度) 平成24年度(2012年度)
 3 保護回復事業計画の評価年度 令和 3年度(2021年度)

4 計画の概要

(1) 現計画(計画策定時)における課題

【短期的な課題】

- ア 巣箱かけによる保護対策の継続
- イ 地域における保護・監視体制の一層の充実
- ウ 観察者・写真撮影者等の接近による影響の回避

【中・長期的な課題】

- ア 保護活動の取組の拡大
- イ 里山における繁殖環境の整備
- ウ ブッポウソウに関する情報の収集と蓄積

(2) 現計画(計画策定時)の目標・取組事項

◆目標

【短期目標】

- ・繁殖地における保護活動の継続及び近接する繁殖適地への拡大
- ・つがい数の増加

【中長期目標】

- ・巣箱での営巣から里山における自然木の樹洞での繁殖

◆取組事項

【短期的な取組】

- ア 巣箱かけの取組**
・県内の繁殖適地において、保護団体等による巣箱かけを実施。
- イ 観察者・写真撮影者等への注意喚起**
・観察者等が不用意に営巣場所へ接近しないよう、看板の設置等の注意喚起を実施。
- ウ 地域における保護・監視体制の構築**
・行政、学校関係者、地域住民等の連携により、保護・監視活動を実施。



【中・長期的な取組】

- ア 現在の繁殖地の周辺地域への取組の拡大**
・繁殖地域において行われている保護活動を周辺地域へ拡大する。
・新たな巣箱かけ設置箇所の選定等に係る情報の収集・整理を行う。
- イ 生息環境の確保**
・里山環境の整備や繁殖に必要な環境条件の確保、維持に関して、地域への理解を求める。
- ウ モニタリングの実施**
・個体数の増減及び繁殖状況並びに生息環境等に関する調査を継続的に実施。

【地域における保護活動の環境教育や地域活性化への活用】

- ブッポウソウの保護活動を小中学校の環境教育の一環として実施。

5 計画策定以降の対象種の動向・現況

評価指標	計画策定時	評価時	動向
①つがい数	30 つがい	50 つがい	
②分布状況	栄村、天龍村、 飯田市、中川村、 飯島町	・中川村、飯島町は町村内での分布の広がりが見られている ・一方で、他の周辺地域への広がりは見られていない。	

③保護回復取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・巣箱の設置(31 個) ・観察会等の普及啓発 ・フィールドマナーの周知 	保護団体等による保護活動が継続して行われている。 <ul style="list-style-type: none"> ・巣箱の設置(53 個) ・観察会等により、地域への普及啓発を実施。(5 団体) ・生息地のパトロール等により、観察時の注意事項を周知。(2 団体) 	↑
-----------	--	---	---

対象種の現況	<p>① つがい数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つがい数は、保護回復事業計画が策定された時点と比べると増加傾向にある。特に中川村内においては、つがい数が顕著に増えている。 <p>② 分布状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護回復事業計画が策定された時点の分布を維持している。 ・中川村、飯島町地域内での広がりは見られるが、周辺地域への拡大までには至っていない。 <p>③ 保護回復事業計画取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護回復事業計画策定時の保護団体については、計画策定後も継続的な保護活動を行っている。 ・保護団体等の継続的な取組により巣箱の設置数は増加し、それに伴いブッポウソウのつがい数が増えている。 ・巣箱の設置の他、小中学生等を交えた観察会、啓蒙看板の設置等を行い、ブッポウソウの保護に関する普及啓発活動が実施されている。 <table border="1" data-bbox="300 945 1334 1301"> <thead> <tr> <th>取組内容</th> <th>活動団体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巣箱の設置</td> <td>栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、</td> </tr> <tr> <td>観察会等の実施</td> <td>栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、</td> </tr> <tr> <td>啓発活動の実施</td> <td>栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、</td> </tr> <tr> <td>生息地のパトロール</td> <td>天龍村、ブッポウソウの里の会</td> </tr> </tbody> </table>	取組内容	活動団体	巣箱の設置	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、	観察会等の実施	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、	啓発活動の実施	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、	生息地のパトロール	天龍村、ブッポウソウの里の会
取組内容	活動団体										
巣箱の設置	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、										
観察会等の実施	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、ブッポウソウを見守る会、										
啓発活動の実施	栄村教育委員会、天龍村、遠山郷ブッポウソウ友の会、ブッポウソウの里の会、										
生息地のパトロール	天龍村、ブッポウソウの里の会										

矢印凡例



増加



微増



横ばい



微減



減少

6 保護回復事業計画の見直し

計画継続に関する決定	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 計画継続 (部分的修正を含む) </div> ・ <div style="margin-left: 20px;"> 計画見直し (計画終了を含む) </div>
計画継続時の配慮事項 / 見直し時に必要な事項	<p>◆計画継続に伴う配慮事項</p> <p>① 保護活動の支援</p> <p>保護団体の中には活動に必要な資金・体制が零細な団体もあることから、県の「生物多様性保全パートナーシップ協定制度*」を活用する等、地域や企業の参画等による保護活動の支援が必要である。</p> <p>*「生物多様性保全パートナーシップ協定制度」とは 保全団体等が行っている生物多様性の保全活動に企業や学校等の参画を促し、資金的・人的支援を得ることで、社会全体で生きものの保全を推進するため、県が平成27年度に設立した制度。</p> <p>② 潜在的に生息可能な地域の把握</p> <p>ブッポウソウの生息範囲を広げるために、現在保護活動が行われている地域以外に、生息可能な地域がどの程度あるのかを把握し、必要に応じて保護活動の拡大について検討する。</p>

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 栄村教育委員会事務局

(2) 取組における特記事項

- ブナ林に設置した巣箱の調査・点検・清掃・更新を継続して実施しており、令和3年度は自然保護講座と題して、地域住民が参加しやすい体制で実施。（ブリ縄の実演、ブナ林の中で講師を囲んだ講座）
- 平成28年からの営巣確認数は若干の減少傾向ではあるが、毎年10数羽の営巣が確認されている。
- 地元中学生にも声をかけ、巣箱づくりや調査活動に関わってもらっている。
- 営巣が顕著な地区では見学者等に向けての看板を2基設置し、ブッポソウの営巣・繁殖に影響を与えないよう注意喚起を行っている。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項 目	評価	コ メ ン ト																																				
取組の方法は適切か	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巣箱設置数：村内に51カ所 ・ 自然保護講座の開催(講師による講演/保護調査活動) ・ 地元住民や中学生が巣箱造り、調査活動に参加 ・ 注意喚起の看板を設置 ・ ブッポソウの専門家との連携 																																				
取組の頻度は適切か	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例年5月上旬にブナ林に設置してある巣箱の調査・点検・清掃・更新を実施 																																				
取組の成果 (対象種の動向)	→	<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #ffffcc;">巣箱数</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">35</td> <td style="text-align: center;">36</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">45</td> <td style="text-align: center;">56</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">51</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #add8e6;">営巣数</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">17</td> <td style="text-align: center;">15</td> <td style="text-align: center;">13</td> <td style="text-align: center;">10</td> <td style="text-align: center;">12</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #add8e6;">(うち樹洞)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	巣箱数	35	35	36	50	45	56	50	51	営巣数	13	8	13	17	15	13	10	12	(うち樹洞)				(1)	(1)	(1)		
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2																														
巣箱数	35	35	36	50	45	56	50	51																														
営巣数	13	8	13	17	15	13	10	12																														
(うち樹洞)				(1)	(1)	(1)																																

評価凡例 [◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外] 矢印凡例 [増加↑~減少↓]

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでは、専門家の調査研究に協力という形で地元有志や中学生に声をかけ、例年5月上旬に巣箱の設置、クリーニングなど実施。令和3年度から作業の安全面を担保し、教育委員会主催の自然保護講座として開講。 ○調査活動ではブナの木に登るため安全に十分に配慮した調査が必要。 ○ブリ縄を扱える後継者としての人材養成が必要。
--------------	--

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	保護回復事業の継続
------------	-----------

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 天龍村

(2) 取組における特記事項

村内に飛来する個体の繁殖場所の提供として平成9年から巣箱を設置。県の計画策定された平成24年以降も継続的に巣箱を設置し保護活動をしている。地区の住民や、村内で活動する「ブッポウソウを守る会」、天龍小学校と連携して巣箱作りや観察会を行っている。また観察者への啓発看板の設置やパトロールも行っている。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項 目	評 価	コ メ ン ト
取組の方法は適切か	○	巣箱の設置、観察者への啓発看板設置、パンフレット配布、観察会などの活動を行っている。
取組の頻度は適切か	○	春の巣箱かけ、秋の取り外し時の繁殖状況調査を毎年行っている。 毎年2月に天龍小学校児童による巣箱作りを実施。 毎年7月に観察会を実施。
取組の成果 (対象種の動向)	→	平成10年の営巣数2から、平成17年以降10前後の営巣数を維持している。

評価凡例〔◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外〕 矢印凡例〔増加↑～減少↓〕

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	地域住民や小学校の協力を得て安定的に保護活動が行われている。
--------------	--------------------------------

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	今後も継続して地域住民、ブッポウソウを守る会、天龍小学校と連携して保護回復活動を行っていきたい。県の保護回復事業計画においても継続する事を願う。
------------	--

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 遠山郷ブッポウソウ友の会

(2) 取組における特記事項

平成21年、当時遠山中学校2年生が「総合的な学習の時間」において、ブッポウソウの保護活動を始めました。その後、遠山郷ブッポウソウ友の会を中心に、南信濃公民館、南信濃まちづくり委員会環境保全委員会の協力を得て、保護活動を続けてきました。毎年4月下旬に、遠山川に架かる橋に巣箱を掛けた結果、毎年1～3箇所で営巣・繁殖が確認されています。

毎年ではありませんが、観察会も数回開催、観察者への啓蒙看板の措置、令和3年は1箇所で営巣を確認しました。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項目	評価	コメント
取組の方法は適切か	○	・巣箱の設置 ・観察会 ・これまでのブッポウソウの取組についての講話等
取組の頻度は適切か	○	・春の巣箱掛け、秋の取り外し時の繁殖状況調査を毎年実施 ・数年に1回、観察会の実施
取組の成果 (対象種の動向)	→	・計画策定時の平成24年 営巣数2 繁殖成功数2 以降 営巣数1～3 繁殖成功数1～3 年によって増減がある

評価凡例〔◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外〕 矢印凡例〔増加↑～減少↓〕

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	年によって増減はあるが、毎年1～3箇所の営巣、繁殖があり、ほぼ同じ地域。課題としては、常にブッポウソウの観察ができず、飛来時期や巣立ちの時期などを把握できないため、巣立った後の巣箱によって確認していることが多く、観察記体制が整えば、もっと観察会を実施するなど保護活動が盛んに行うことができる。
--------------	--

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	全国的に見ても、ブッポウソウの繁殖は、ほとんどが巣箱によるもので、保護活動を行っていくためには計画の継続が必要かと思えます。
------------	--

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 ブッポウソウの里の会

(2) 取組における特記事項

中川村に飛来する個体の繁殖場所の提供として平成15年から巣箱を設置。県の計画が策定された平成24年以降も巣箱を増やして保護活動を行っている。地区住民や中川東小学校、中川西小学校と連携し、巣箱づくり、観察会を行っている。役場広報、観察会・学習会での啓発、見守り活動等の取り組みを継続して行うことにより、当地区の営巣数は平成15年の3つがいから平成29年には23つがいが増加し、それ以降は20前後の営巣数を維持している。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項目	評価	コメント
取組の方法は適切か	◎	巣箱の設置には、繁殖に適した場所の見極めを行い、地権者、管理者の同意を得ている。秋に巣箱外しを行い、調査と巣箱の長寿命化を図っている。 写真展（「美しい村のブッポウソウ」、「美しい村の野鳥たち」）を伊那合庁、中川村文化センターで開催、観察会を村内で開催している。 中川東小学校、中川西小学校と連携し、環境教育の取組を行っている。
取組の頻度は適切か	○	4月下旬から5月中旬にかけ巣箱かけを行い、10月中に巣箱外しの時に繁殖状況の調査を毎年行っている。 観察会（7月）、写真展（11月）定例実施している。
取組の成果（対象種の動向）	↑	計画策定時の平成24年の営巣数7つがい、令和3年の営巣数20つがい、繁殖成功数18つがいとなり、増殖に貢献している。

評価凡例〔◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外〕 矢印凡例〔増加↑～減少↓〕

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	これまで県、村の助成をうけながら活動を行っているが、単年度の助成であることから、遣り繰りに苦労している。現状維持が精一杯で、環境保全のための発展的な取組ができないでいる。巣箱かけ（外し）の際の、高所作業車のレンタル費が出費の大きな比重をしめている。 次に続く若い世代の会員を増やす努力をしなければならない。
--------------	--

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	是非、継続した取組をお願いしたいと思います。
------------	------------------------

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 ブッポウソウを見守る会

(2) 取組における特記事項

飯島町に飛来するブッポウソウの営巣場所に当会として平成22年から巣箱を設置し、1ペアの営巣と巣立ちを確認。平成25年には田切放課後クラブ（田切公民館事業）の小学生20名で10個の巣箱を作り橋に取付け。以来、毎年10個の巣箱を橋に取付け、2ペア以上が毎年営巣。

公民館と共催で観察会を実施。道の駅田切の里を起点に歩きながらの観察会に多くの参加者が訪れます。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項目	評価	コメント
取組の方法は適切か	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・春の巣箱かけと、巣箱の取り外しの際、巣箱の中の繁殖状況、餌の調査、巣箱の中の写真撮影、巣箱の清掃保管を毎年行っている。 ・1つの橋に2つ以上の巣箱設置（1つだとチョウゲンボウやムササビに巣箱を占領されてしまうから） ・写真展示を道の駅田切の里で、春の飛来前の1～2ヶ月間。（令和2年からは外壁にも常設展示） ・観察会を毎年実施（参加者20～50人、毎年人気で県外からも参加）
取組の頻度は適切か	○	<ul style="list-style-type: none"> ・巣箱掛けと取り外し時の調査を毎年実施 ・写真展示は、令和2年から常設展示 ・観察会を毎年6月実施
取組の成果（対象種の動向）	↑	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年の1ペアの営巣・繁殖数から、令和3年には5ペアが営巣、4ペアが繁殖し、増加している。

評価凡例〔◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外〕 矢印凡例〔増加↑～減少↓〕

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	高齢化に伴い若い世代の人材を確保しないと継続出来ない。
--------------	-----------------------------

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	計画を継続し、保護活動への支援を願いたい。
------------	-----------------------

付表2

保護回復事業計画 「評価シート（計画策定者）」

1 保護回復事業計画策定者による自己評価

(1) 評価者 長 野 県

(2) 評価における特記事項

平成 24 年度のブッポウソウ保護回復事業計画が策定された時点で繁殖が確認されていた栄村、天龍村、飯田市南信濃、飯島町、中川村の各地域で保護活動が行われており合計 30 つがいが確認されていた。その後も継続して活動団体・地域住民・小中学生・市町村役場等の協働により、保護の取組が行われている。

直近のつがい数は繁殖地域により横ばい～増加で、合計 50 つがいの営巣が確認されている。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項 目	評価	コ メ ン ト
取組の方法は適切か	○	活動団体・地域住民・小中学生・市町村役場等が協働で次の取組が行われている。 ・繁殖のため飛来する個体の手助けとして巣箱の作成・設置と補修・清掃 ・観察会や写真展示により、地域の保護意識の醸成を図っている ・看板設置やパンフレット配布、パトロールを実施し、観察者・写真撮影者へのフィールドマナーの周知
取組の頻度は適切か	○	飛来直前の 4 月下旬～5 月中旬に巣箱掛けと、秋の取りはずし時に繁殖痕跡調査を実施（栄村では翌春に調査・清掃） 観察会は天龍村、飯島町、中川村では毎年実施、南信濃は不定期開催 栄村は令和 3 年から自然講座を開催 写真展示は飯島町、中川村で毎年開催（飯島町は令和 2 年から常設展示）
取組の成果（対象種の動向）	↑	つがい数として、保護回復事業計画が策定された平成 24 年度の 30 つがいと比較すると、直近は合計 50 つがいの営巣が確認されており、平成 28 年の 54 つがいを最高値に、以降、高水準を維持している。 飯島町、中川村が顕著に増えており、他は横ばい～微増である。

評価凡例【◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 ー:判定外】 動向凡例【増加:↑、微増:↗、横ばい:→、微減:↘、減少:↓】

②計画と取組の課題・問題点及び改善点

計画・取組の課題・問題点	活動の存続には、巣箱経費等の資金調達及び、担い手の確保や継承が必要
計画・取組の改善点	活動団体と地元自治体や小中学校との協働を継続し、観察会や写真展等を活用して活動内容のPR及び調査記録の蓄積を行うことで、担い手の確保・継承や支援者との繋がりに結びつける

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	計画策定時と比較してつがい数は地域によって、増加～現状維持であり、巣箱設置等の取組による保護活動により支えられているものである。活動の継続・拡充や情報共有が今後も必要であることから、計画を継続したい
計画継続時の配慮事項／見直し時に必要な事項	栄村では当初よりブナ林内の立木への巣箱掛け、中川村は橋梁や電柱・ポール及び立木への巣箱掛けで近年は人工物利用と立木利用がほぼ同数で、その他の地域では橋梁への巣箱掛けである。中長期目標である、巣箱による手助けから里山の自然木の樹洞での繁殖には、継続した取組みと期間を要する

保護回復事業計画 「検証シート（研究機関）」

1 取組と対象種の現状に関する意見

(1) 検証者 長野県環境保全研究所

(2) 取組と対象種の現状に関する意見

①対象種の動向

評価項目	評価	確実性	意見・付記事項
つがい数	↗	B	保護回復事業計画が策定された平成24年（2012年）のつがい数は30であったが、令和3年（2021年）には50つがいに増加がみられた。特に、中川村では、平成27年（2015年）から平成29年（2017年）にかけて巣箱数を31から53に増加させたことにもない、つがい数も8から23に急増がみられた。
分布状況	→	C	保護回復事業計画策定時に保護回復の取組を実施した団体のある、天龍村、栄村、中川村、飯島町、飯田市南信濃では、つがい数の増加がみられ、中川村や飯島町では村内での分布の広がりが見られている。一方、そのほかの市町村への分布の広がりは見られていないのが現状である。ただ、断片的ではあるが2020年に中信地域で幼鳥連れの個体が確認され*1、2021年もその周辺でつがい確認されている。
保護回復取組状況	↑	B	保護回復事業計画策定時に保護回復の取組を実施した5団体は、その後も活動を継続している。重要な取組である巣箱の設置については増加あるいは現状維持である。活動団体だけではなく地域住民や小中学生、市町村役場等との協働も見られ、団体によって温度差はあるものの観察会や写真展示、観察者や写真撮影者へのフィールドマナーの周知として、看板設置やパンフレットの配布、パトロール等も実施されている。

評価凡例〔増加:↑、微増:↗、横ばい:→、微減:↘、減少:↓〕 確実性凡例〔A:高い、B:やや高い、C:やや低い、D:低い〕

②対象種の動向を踏まえた取組の改善点

項目	意見・付記事項
保護の取組 (巣箱の設置)	ブッポウソウは林（営巣場所）と田畑など広がりのある空間（採食場所）が隣接する環境を好む。現在、そのような環境に樹洞のできる成熟した林は非常に少ない。そのため、ブッポウソウの保護にあたっては、巣箱の設置が必須である。これまで保護活動を行ってきた5団体の活動が継続されるためにも、他の地域に保護活動が広がるためにも、巣箱経費等の資金調達及び、担い手の確保や継承が必要である。保護回復実施団体だけでは限界があるため、今後は事業計画策定者である長野県などのサポートも重要になる。
営巣・生息環境 の把握	保護回復事業計画策定までは、県北の栄村でブナ林内への巣箱設置、県南の天龍村、飯田市南信濃、中川村、飯島町で橋梁への巣箱設置が行われてきた。岡山県などで行われている農村地域に巣箱を設置してもブッポウソウは使用しないとされ、保護活動を広げる際の課題となっていた。計画策定後、中川村では、橋梁のほかに農村地域の電柱などに権利者の許可を得て巣箱を設置し、その巣箱をブッポウソウのつがい利用することで、つがい数が大幅に増加した。今後、活動を広げていくためにも、巣箱の設置に適した環境を抽出し、県内にどの程度そのような場所があるのかを検討しておくことは重要な課題である。

分布状況	保護回復事業計画策定後も、保護活動実施団体は5つにとどまっております、ブッポウソウの分布範囲も、中信地域で断片的な記録は見られるものの、栄村、天龍村、中川村、松川町、飯田市南信濃の5市町村にとどまっています。ブッポウソウの生息分布を広げていくためには、「営巣・生息環境の把握」の項で述べたように、ブッポウソウの潜在的な生息可能範囲を抽出し、そのような地域での保護活動の可能性を模索していくことも中長期的には重要な課題である。
------	--

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	保護活動団体の努力により、巣箱数の増加、それにとまなうブッポウソウのつがい数増加が見られるが、その数は50前後である。一方、分布状況は保護回復事業計画策定時と同様に、保護活動が行われている5市町村にとどまっています。そのため、今後も継続的な取組を必要とする段階のため計画継続を提言する。
計画継続時の配慮事項 ／ 見直し時に必要な事項	<p>ブッポウソウの保護回復事業で重要な活動は、保護活動団体による巣箱の設置や観察会の実施、フィールドマナーの周知などである。これまで、団体自身の努力や地元市町村の協力によって、巣箱経費等の資金調達及び、担い手の確保や継承などが行われてきた。今後、その活動が継続発展するためには、「人と生きものパートナーシップ推進事業」などを活用し、県としてもサポートしていく必要がある。</p> <p>今後、ブッポウソウの生息範囲を広げていくためには、現在保護活動が行われている地域以外にブッポウソウの潜在的な生息可能な地域がどの程度あるのかを検討し、保護活動の範囲を広げることも検討していく必要がある。</p>

(参考文献)

*1 栗林勇太 (2021) 長野県中信地区におけるブッポウソウ *Eurystomus orientalis* の記録 -長野県松本市における観察記録と市立大町山岳博物館収蔵の大町市及び小谷村の標本記録-。市立大町山岳博物館研究紀要 6:25-27 (<https://www.omachi-sanpaku.com/sanpaku/bull/docs/bulletin6.pdf>) .